

どんなことにもワクワクを



ほりうちとみひさ
つる 都留市長(山梨県) 堀内富久

魅力に捕らわれて

私は、高校を卒業後、修業期間を経て家の電気設備会社に就職をし、当時20代から50過ぎまでは、ただ懸命に、そして、がむしゃらに家業の仕事と向き合い、その後、政治家となり今に至っております。

また、学生時代はバスケットボールに打ち込んでおり、当時では珍しくバスケットボールのために地元ではない強豪校へと進学し、全力で取り組みました。家庭の事情もあり、バスケットボールを続けることはできませんでしたが、当時、全力で取り組んだ経験、根性や体力は今の礎となっていると思います。

就職してからは約10年間、本当に仕事をたただひたすら、そして粘り強く取り組み、30代後半となり、ようやく会社が軌道



令和4年に釣り上げたクエ 138cm 36kg

に乗り始めると、少しずつ自分の時間を作り始め、現在の趣味でもある釣りやゴルフを始めるようになりました。

政治家となつてからは、趣味を十分に満喫するほどの時間は取っていませんが、それでも少しの時間があれば、すぐにでも船釣りに出かけ、マグロをはじめとする、カツオ、アカムツ(ノドグロ)、カンパチ、モロコ(クエ)などの時期に合わせた大物を狙っております。直近では昨年、130kgのマグロが釣れ、とても興奮したことは記憶に新しいところであります。今、このことを思い出しただけでも、釣りの虫がうずき出し、すぐにでも船に飛び乗りたいところではあります。この気持ちはやはや抑えないといけません。自重、自省したいと思います。

また、ゴルフにおいても、当時シングル

プレーヤーとなるほど全力で取り組みました。自分で言うのもなんですが、仕事に対しても趣味に対しても全てに対して、自分が情熱を注ぎ込むと決めたものには、ただ懸命に、ひたむきに、粘り強く、取り組み続けることが大事だと感じており、そうすることで、毎日がワクワクする楽しい気持ちで過ごすことができると考えております。

私が育ったまち「都留市」

都留市の読み方は「つるし」です。なかなか読みにくいかと思いますが、「都留文科大」^{つるし}という名前を聞けば、「そうか、都留ね」と思われた方もいらっしゃるかもしれません。私たちのまちの名前は、ぜひこの記事をきっかけに覚えていただければ幸いに存じます。

さて、都留市は山梨県の東部に位置し、富士山の麓にありながら、東京都心まで車で1時間弱、周囲には「新・花の百名山」に選ばれた三ツ峠山や九鬼山をはじめとする、ハイキングに適した「都留市二十一秀峰」があり、また「平成の名水百選」に選ばれた十日市場・夏狩湧水群^{なつかりのうすいぐん}などもあることから、週末には多くの登山客や観光客でにぎわっている自然豊かなまちです。

人口は約3万人の小都市ではありながら、都留文科大をはじめとする大学などが3校立地し、人口の約8人に1人が大学生という特殊な人口構成となっております。また、歴史も深く、もともとは城下町として発展してきた経緯もあり、江戸時代には「ずいずいずつころばし」のわらべうたで有名な、京都から江戸へお茶を届ける「お茶壺道中」が経由した地でもあります。その他にも、テレビなどのメディアではリア実験線や見学センター、車両基地があるまちとして時折取り上げ



富士山とリニア

聞こえるおはやし
の練習の音が
まち全体を包み
込むと、まち全
体がワクワクし
てきます。ぜひ
皆さまにも本市
へお越しいただ
き、お祭りを堪能
いただければ
と思います。



ふるさと時代祭り

私も小さい頃の、8月下旬の夏休
みが終わる寂しさより、9月のお祭
りを迎える何とも言えないワクワク
感が高まる気持ちを昨日のことの
ように思い出します。9月が近づく
につれ、まちの空気が祭りに向けて
変わっていく様子、そこかしこから

られ、小さいながらもこうしたメディアに
登場することの多いまちでもあります。
また、都留市といえは何と言っても、
毎年9月の第1土曜日と日曜日の両日に
行われる、本市一番のお祭り「ふるさと時
代祭り」であり、豪華絢爛な4町の屋台
曳行、日曜の昼の総勢100名以
上に及ぶ大名行列はまさに圧巻で、
その歴史は江戸時代までにさかの
ぼります。詳しくは私も出演して
います「つるのルーツ」のPVを見
ていただければうれしいです。

まちはこれから、もっとワクワクが 集まるまちへ

本市がもっとワクワクするまちになるた
めには、何をしていけば良いのか。私には
何ができるのか。市民の皆さまは何を望ん
でいるのか。その葛藤の中で、私が市長に
就任してから2年間をかけて、平成28年度
から令和8年度までの11年間にわたる計
画、第6次都留市長長期総合計画を策定し、
まちの将来像を「ひと集い 学びあふれる
生涯さらめきのまち つる」と定めました。

本市では将来像を基に、まちのにぎわい
を創出し、いつでも、どこでも、質の高い
学びが約束され、誰もが安心して、さらめ
く暮らしができるまちを目指した施策を展
開しており、その究極である全てを集合さ
せたのが「つる湧水のほとり整備プロジェ
クト」であります。

このプロジェクトは、都留文科大学に近
接し、利便性が高く、若者が集まるエリア
に、たくさんの方々の多様なコミュニティ（市民
はもとより、子どもから大人まで、移住者
や学生、留学生やシルバーク世代）を集め、
それ自体が新たなコミュニティとなり、何
が起こるか分からないワクワクする拠点づ
くりを目指しています。

子育ての拠点施設、大型遊具を備える公
園、大学関連施設、オフィスとしての機能
を持つ施設、そして民間施設が続々と建設



つる子どもまつりにて

されていく計画となっており、今なお多く
の新しいアイデアを頂きながら進化してい
るところです。昨年には、その拠点第1弾
となる地域交流拠点施設「nicot（にこつ
と）」がオープンし、室内はたくさんの子育
て世帯の方を中心ににぎわい、外の芝生広
場では子どもたちの声が元気に鳴り響いて
おります。

社会情勢を見渡すと暗いニュースが多い
昨今ですが、一歩でも前に進むこと、すな
わちワクワクする方向へ進むことが、未来
への希望だと考えております。ぜひ、皆さ
まにも本市を知っていただき、共にワクワ
クする未来へ進んでいけることを願って
おります。